二十四日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵 税 金十五錢
□一 部 賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜 報 欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平） 七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 森 合 英

閼伽井嵐

奉働の提唱

松村亭

どんな法律にも拔道があると今迄云はれて來た。政府が布告する法令は勿論やたらに出る標語の如きも拔道は絶えない『職域奉公』と云ふ標語も何と云ふ拔道と矛盾に滿ちた言葉だ！闇商人が商賣を一生懸命やつて儲けるこれも職域奉公だと嘯く。賣春婦が一生懸命稼いで性病を増やすこれも職域奉公の一つだ。何とでも意味はとれる、一体政府は標語の製造元にはなるが眞に精神を吹込んだ言葉の足らぬ憾みがある解釋の仕様で惡用される言葉があつたら『善用するにはかうしろ』と具体的に示すが良い。示す事が出來なければ直ちに廢止すべきだ。過をはばかる必要はない

思ふに職域の職は萬民の職業であらう職域とは職の内だけで奉公せよと誤り易い。職業を離れた奉公も勿論ある筈だ。次に單なる『職業に精勵する』と誤り易い。若しそれ自由主義の精勵であつたら飛んでもない事になる。次に奉公と云ふ言葉が惡い。奉るのは上御一人に對してでなければならぬ公に奉ると云ふ言葉は自由主義の遺殘物の如く思はれてならぬ、斯様な理由で私は『職域奉公』をやめて『奉働』と云ふ言葉を提唱する、『萬民の働きを上御一人に對して奉る』と云ふ意味である。奉働とは何と云ふ明るい言葉だ而してこれに職内奉働と職外奉働と分ける。正しき經濟明るい勞働は職業上の奉働とし、隣組の活動其他ドイツの歡喜力行は職業外の奉働である、ヒツトラーは人民の職業外強制國家勞働によつて多大の効果を收めたと云ふ。政府の役人は須らく自己の與へた標語の成果を見に地方行脚でもするが好い

大衆は敏感だから人間が宜い加減な小智慧を働かして之を率ゐることなどはとても出來るものではない（藤井茂）

初等科一、二、三年の『自然の觀察』（三）

（四倉）鈴木

指導例は東京の近郊に於ける學校を基準にして、そこにあてはまる指導の數例を具体的に記述したものであつて教師は土地の狀況、兒童の實際に鑑みてこの指導例を參考として實地指導をなすことになつて居るのであります。

指導上の留意事項

1、學習を通じて常に正しい行動をするやうな訓練に努める。

2、兒童の心身全体の活動を盛んならしめることに努める。

イ、理智の方面を中心とするも情意の方面と未分な狀態であることに注意を拂ふ。

ロ、對象に對する第一印象を重視する。

ハ、常に行動にうつたへさせるやうに注意する。

3、兒童が興味と必要とを感じ、自ら見出し工夫するやうに指導し發見創造の喜びを味はせつゝ、知識の向上を圖る。

4、兒童の抱く疑問に對しては安價な解決を與へることなく、教師も一緒になつて解決する態度で指導する。

以上が兒童を指導する上に於ての主要留意事項なのであります。

◇

初等一、二、三年の理科「自然の觀察」は自分の身の廻りの事物現象に對して正しく眼をむけ自分の力でいろ／＼の事柄を學ぶ様に躾て行き、正しく見たり考へたり取扱つたりする力をつけてやり、何か日常の仕事をするときに計畫的に合理的に、秩序立つたやり方をしなければ氣がすまないといつたところまで躾て行かなければなりません、これが理科の勉强の基であります。（完）

冬日抄（四）

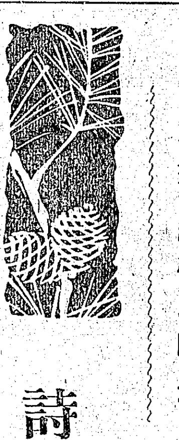
木下雁次

一月三十日　晴

寒さがぐん／＼ゆるんで來た。

第二時間目の四丙の國語は「百蟲譜」であつたが教材を充分こなしてなかつたのでかなりまごついた。第一「譜」の字の説明からしてしどろもどろだ。「蝸牛は只水に遊ぶべきもの／＼いかで草葉に遊ぶらん」何故一只水に遊ぶべきもの」といつたのかに就いてもぼんやりしてしまつた。今日は頭がどうかしてゐるらしいざつと讀んだ位で教壇に立つてはとても充分な授業はできない。先生があやふやで生徒に徹底する筈はない。すつかり憂欝になつてしまつた。午後五丙の漢副、教場に行つて見るとドア1がしまつてゐる。押しても開かぬ。正級長が困つた顔で自分の側に立つてゐる。五丁の連中がわあと囃し立てる。教室の中の生徒はだまつて机に坐つたまゝ敢へて戸を開かうとする者もない。少しじり／＼として來た。大きな聲で「開けろ！」とどなつた。併し中は一層しーんと靜かにしてゐる。その中に勇敢(?)な生徒が一人、そのあとからも人出て來てやつと開けた。入つて見ると御丁寧に針金で結びつけてあつたのだ。壇上に立つたが思ひ切つて叱る元氣もない。默つて授業をすすめた。生徒のいたづらをしかつた時代は教員として熱があつたのだ。熱がなくなつた教員に本當の授業はやれぬ。熱のない授業が生徒に滿足を與へる筈もない。放課後龍谷寺で一昨年卒業した駒ヶ嶺重元君のお葬式があつた。小松代君等が同級生として香典を集めたり、弔辞を讀むことにしたりしたのはいつもながら大變好い事だ。遺族は勿論、死んだ駒ヶ嶺君もどんなにか喜んだことだらう。今井君の弔辞も好く讀んだ。

近頃自分はたび／＼死の恐怖におそはれて慄然とすることがある死にたくない、生きたい。子規でも樗牛でも眉山で皆自分より若くして死んだ。漱石や蘆花やの年齢迄生きるとしてもいくらもないまご／＼しては居られんぞと思ふ。一体自分は何をしたか？何もして來てゐないではないか。それにしても中學を出ただけでそれこそ本當にはかなくなつた人が幾人あることか口惜しい限りだ。



詩

佐分利晃選

歩み

（平）追風

紫の野に
柔らかな雨が降ると
草も木も
生命の
よみがへるよろこびを抱き
生くるものゝ歩みを始める

かゝよふ嫩葉の
そゝいぶきは
目に耳に心よく染み入り
胸には若人の血潮が
モク／＼躍動する

冬のとばりは開かれて
黎明の鐘は春を告げ
すべての生物は生くる喜びを讃へ
大いなる歩みを始めてゆく

異說赤穗浪士（204）

桃川若燕
（畫）城木喬

快辯の大石

ときに土屋相模守が

『成程下總武藏の兩國にかゝる橋なれば、これを兩國の御橋と云ふお膝元では決してない』

と大石に同情の言葉を述べた。

『然らば次に相尋ねるが第一條四十余人徒黨をなし、吉良左兵衛屋敷へ推參致し隱居上野介を討取り候、徒黨のものは差し出姓名の外になきや如何ぢや』

『徒黨とのお尋ね恐れ入り奉ります。然し文字は徒黨とは徒の黨と認め候由、我々はじめ徒に徒黨なしたる覺えは更になく、全く一味同心のもの四十余人の外に一人もなく此段お答へ申し上げ奉りまする』

『其方は内匠頭繁昌の折は城代家老を勤めし由、して見れば諸家共に表御門の大切な事は辨へ居るであらう』

『ハヽツ如何にも辨へ居ります』

『然らば第三條を尋ねるが第三條には表御門を打破り亂入致し候事とある。この儀は如何である。申し開きあるか』

『以ての外のお尋ね、我々一味同心の者吉良邸に推參の節は犬潜りなどより乘り込み候事にて、表御門を打ち破るなど申す事身にとつて覺えなく、然し吉良殿家來卑怯にも、我々推參仕り候節、只己れの一命を全うせんが爲めに、狼狽へ騷ぎて逃げ走り候もの、内より門を毀したることゝ相見え、引上げの節これを發見致し余儀なく表御門の破れし儘これを嚴重に閉ぢて引上げましてございます。決して御門を打ち破つて亂入いたしたなどはございません』

大石の返答に次ぎ、土屋相模守が、

『成程大石の申す如く吉良の家來が逃げるとき門を毀して逃げしと見える。佐渡守此點はお咎めはござるまい。跡の箇條をお尋ねあつて宜しからう……』

『ウム然らば第四條、繩梯子を用ひし儀覺えは如何ぢや』

『繩梯子と申しまするは城乘りの節に用ひまする物と心得え居ります、此度吉良邸へ推參いたすにつき、何しに軍器を用ひませうや。全く有合せましたる竹梯子を用ひましてございます』

『それに相違ないか』

『毛頭相違ございません』

『第五條、討入り候人數の外に大勢加勢したる者有りし由、この儀は如何ぢや』

『先刻申し上げました通り一味同心四十余人の外加勢仕りますものは一人も無之、素より故内匠頭浪人共に加勢したる者有りと思召さば何卒其の人は面會致したく……』

『ウム、ないとあらばそれで宜しい、第六條は討入りの節、陣太鼓を用ひ候事軍事に近く穩かならざる事申し譯あるか如何ぢや』

『恐れ乍ら陣太鼓を用ひたりとの事聊かも覺えなく拙者事去年三月より病氣の爲め大音を發する事叶はず吉良邸に推參の時も表裏に人數を分ち爲め裏手の者に下知するに大いに惱み、依つて小兒手遊びの太鼓を持參致しこれを打つて下知仕りました。それ陣太鼓と云へば表皮に金龍を描き、裏皮には巴を描き、晝の戰ひには裏皮の巴を打つと承はり、胴の厚みは三寸六分にして地の三十六卦を象り、打つ可き撥は二尺八寸、これは天の二十八宿を象り、その撥を二つに切つて打つと承はり、又打つ太鼓の鋲の數は三百六十一にして、これ一年の日を象りしもの、拙者討入りの時に用ひましたは左ばかり業々しき物ではなく全く小兒手遊びのものにございます』

『然らば第七條を尋ねる打ち入りの砌り大勢の者を斬つて捨てし事檢視に依つて明かである。如何なれば大勢を斬り捨てたか』

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢
平・大田町電323番

おでん
ヤキトリ
一柳
田町末廣トナリ

梅雨期せまる
晴雨傘とレーンコート
通學服マント 六、五〇ヨリ
大人マント 一五、二五〃
本絹レーンコート 二〇、〇〇〃
婦人用オイルシルクコート 一五、六〇〃
紳士用オイルシルクコート 一三、〇〇〃
平市 大黑屋

女車掌募集
未經驗者を希む
【經驗者も可・本人御來談乞ふ】
三井自動車商會
平市二丁目 電話685番

自動車 助手男 車掌女 急募
求人者 野崎交通自動車株式會社
人員 助手五名 車掌十名
年令 十六才以上二十才未滿
希望者 履歷書持參左記ニ申込ノ事
平國民職業指導所 電五六二番

國民擧つて防火塗裝を！
回危險に曝露する木造家屋
回手輕るに出來る防火家屋
回コロイド防火塗料の特長
大量使用の御注文並團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
カタログ進呈
專賣特許 太陽無機コロイド販賣店
山田文一商店
平市仲町通り 電話二六二番地

愈々運動のシーズン來る
スポーツ……
ハイキングに！
聖戰下の……
體位向上を！
野球、庭球、陸上競技
球技、卓球、体操用具
ハイキング用具
ヂヤンバーとズボン
ワイシヤツ
（各種運動服裝類）
靴と運動具の
大塚へ
平市田町銀座通り 電話七七番
〔公定價格〕

純毛類の
純ドライクリーニングは誰が何んと言つても絶對
他店の追隨を許さぬ
ペンヂン純ドライクリーニング機械と優秀なる蒸氣仕上機械使用
白榮舍ランドリー
（クリーニング用の高級原料は豐富に準備してあります）
他店でお氣に召さぬ時は是非一度御試し下さい
正直な仕事と優秀なる技術を
お望みの方は
設備を誇る平市田町の
白榮舍ランドリー
平市地區洗染同業組合員

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市四丁目
マルトモ食堂
（電話一二三番）

度量衡
モノサシ・升・秤
計量器
體温器・寒暖計
ハカリの取締垂糸を修繕致します
吸入用酸素純度99%
關内藥局
平四丁目 電話四〇番

防空暗幕
天幕・シート
防水マント
カーテン・敷物
防水加工
製作販賣
設計と施工
敷島屋商店
平市六丁目六 電呼四八三番

曳船の御知らせ
漁船家屋其他動産の移動
土木建築請負
鐵道船舶仲仕請負
北村芳藏
小名濱町榮町築港地内
—御希望の方は一應御相談下さい—

時局の生んだ新案特許
日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案
メモ板 第二七七九〇四號
野球ベール 第一七九七三號
興亞ノート 第二四七九八號
專賣特許
興亞厚紙 第（イ）一七三六〇號 第（ロ）一七三六一號
合資會社 興亞特許商事
同工場 月見町三三

巳式風呂釜
設備一式
大谷建材店
平市紺屋町 電三六六

附屬産院 新設
産科 婦人科
木村病院
（姙産婦入院隨意）
平市新川町 電一六四

メガネの店
早期檢眼
正確な眼鏡により視力を保全致しませう
各眼科醫指定處方眼鏡調製
玉屋眼鏡店
平市二丁目 電話635（呼）

鑛泉と割烹
鐵道指定旅館
小瀧
電話（小名濱）一〇三番

ピハマーチ
[illegible]
五十錠入 一、一〇
百錠入 二、〇〇
徳用罐 五、〇〇
特約店
平市五丁目
山野邊藥局

節米趣旨徹底

改正配給米の取扱ひ方指導

平市では昨二十三日午後一時より市會議事堂に區內會長會議を開き來月より變る臨時飯米配給統制に就いて協議した、出席者は區內會長三十三名、市役所側から產業課長連絡員が臨み、劈頭增田產業課長より今次の飯米配給統制實施について次の說明あつた

我が國に於ける飯米事情は客年來未曾有の困難に逢着し國際關係の緊迫に伴ひ日と共に益々重要性を加へ政府は鋭意之が對策を講じ專ら國內食糧需要調節を圖りつゝあつたのでありますが本縣今後に於ける米穀事情は政府供出量の決定と共に最も細密なる運用を期するため現在行はれつゝある一人一日當り二合七勺の規正を是正するの要あるを認められ本年三月三十日現在を以つて各消費者より徵したる申告を基礎に業態年齡性別に依り其の消費量を決定し合理的規正を行ひ縣內需給調整の完遂を期すべく今回の配給統制要項を制定し六月一日より實施されることになつた譯です

尙ほ新通帳は市でこれを調製し米穀配給團体を通じ區內會長、隣組長を經て一般消費者に交付することになつてゐるがこの外一回の配給分量は遠洋航海等已を得ぬ事由に依る以外は十日分以內にすることに成つてゐる

常會指導者再錬成

平市受講者決る

翼賛會縣支部主催の常會指導者幹部錬成講習會は來月一日から三日間福島市青年館で開く平市からは長谷川學務課長、柳沼主任が出席することに決定した

講師は大日本報德會副會長佐々井信太郎氏で牢固な指導理念と常會の運營について再錬成するものである

輝く優良坑夫頭

古河炭礦・鹽澤軍太郎氏表彰

好間村古河炭礦坑夫自治會長鹽澤軍太郎氏は去る二十一日東京上野に開かれた日本鑛山協會總會で全國鑛山模範從業員として本縣では唯だ一人表彰された（全國卅八名）同氏は過般本社の白衣勇士慰問班に共鳴し匿名で金十圓寄託された篤志家で大正十一年以來古河炭礦に勤續すること二十年に及び、常に轉々と職場を替へ社會的に兎角の非難を浴せられてゐる坑夫の指導訓育に身に寛め現好間村會議員として村治にも貢献する處大きく本年四十六才の働き盛りである

鹽澤氏略歷

大正十一年七月古河好間坑務所々屬澁川人繰夫に就職昭和二年一月同坑夫自治會長就任、同年二月坑夫頭に昇進、同三年保健組合理事、同自治會副會長、同七年共濟會長、同九年安全實行會副會長、同十二年一月好間村會議員當選、同十四年九月產報委員並に幹事

小名定置漁業

鯛漁未し・小敷は好漁

小名濱町時の寵兒定置漁業大敷網一、小敷三は每日二回網を起し漁獲に精出してゐるが、大敷網はまだ鯛漁の好期に接せず雜魚のみかゝり髀肉の嘆を喞つてゐるが、小敷方面は大物を期待せぬ丈けに連日少なくて二三百圓多くて四、五百圓宛の好漁に惠ぐまれ市場を賑はせ收支計算も順調の爲め大張込みである

北洋獨行船

荷稲丸根室沖で坐礁

安否氣遣はる

江名町大字中の作作山富太氏所有、第六荷稲丸（四六トン）は北洋漁業カムチヤツカへ出漁のため二十一日北海道釧路港を出帆したが根室沖合で坐礁し、その後の消息不明となつた旨平署へ通牒があつた

同船は百馬力の新造船で船長土井七郎氏(四三)外十五名が乘込み去る十五日中の作港を出港したもので安否を氣づかはれてゐる

日素煙毒

會社側補償言明

小名濱町日素工場に昨二十三日長瀨要次氏が訪問して二十二日工場より吐き出された煙毒の爲め作物に被害あつたと申出たので二十三日工場員がそれが實地踏査したが、成育狀態を見て損害に對する補償をする言明を爲し農民の諒解を求めた

青壯年隊結成

六月一日縣社々前で擧行

平青壯年隊の結成式は六月一日縣社子鍬倉神社々前で擧行することに決定、この日全隊は午前十時舊平商校庭に集合、各分隊每に整列して青沼隊長閱兵し、終つて隊伍を整へ縣社境內へ行進社前に整列して宮城遙拜、祈念をこめ結成式を擧行する

前線慰問通信

★☆★☆★☆【5】☆★☆★☆★

酒ビールは豐富

但し一升拾圓以上に驚く

興東丸にて　縣議　木村守江氏

横井君と小生とは小生出征以來始めての面會であるので想出話で時の過ぎるを知らぬ程であつた、特にこの地は昭和十二年十二月六日兩角部隊の見習士官として從軍中通過せる地であり、小生のこの地を過ぎた時はセメント會社なりしため故鄉四倉を想起し感慨を深からしめた地であつたが今又この會社を磐城セメントにて經營し而かも長友横井氏が廠長してをらるゝかと思ふと感慨無量なるものがある、この工場には廠長以下從業員總數五百五十名といはれてゐるがその中日本人四十五名である、その三一名は石城出身者であるに至つては石城人としての自分は第一線產業戰士を慰問すべく一日を費やすも徒浪ならずと考へ晝食の饗應を受け腰を落ちつけて縣狀並に四倉を周圍とする細大もらさぬ現況を說明した、一同は非常に滿足して悅んでくれた、こゝの石城人は次の如くである。

廠長、横井太郎（四倉）事務課長、細目東雲（同）電氣主任大和田彥造（夏井村）坂本秀壽（久之濱）長谷川太郎（四倉）吉江朝光（同）吉江保（同）佐藤清助（同）若松茂作（大浦）坂本清太郎（夏井）新妻庄三郎（大久村）遠藤善次郎（久之濱）外山孝一（四倉）鈴木孜（大浦）渡邊篤次郎（夏井村）猪狩幸一（大久村）新妻充（大浦村）本間政一（同）鈴木好之助（四倉）岡田眞一（內鄉村）木村信介（大浦）以上である

この工場は四倉のセメント工場とは少し製造法が異なり水泥式即ち溫式であり四倉のやふな乾煉式ではない、この方法が高級品が出來るのだそうである、この工場は新舊二工場より出來ており直ぐ後方は石灰山であり石炭と粘土とを採取しておりその間から石炭が出てゐるこの石炭は露出層であるが下級品の爲め會社の使用には耐へず地方支那民が採取して燃料としこの税金により地元の色々の仕事の基金としてゐるのだといふ　前面には引込鐵道と揚子江からのクリークがあり水陸の便がある、若しこゝから採堀される石炭が使用に耐へるカロリーがあるならば鬼に金棒だと横井廠長が話してゐた　午後四時三十分頃廠長横井氏課長細目氏に送られて十里の道を自動車にて歸る、途次無數の支那土民の耕作に又は行商にいそしむ姿を見る。夜間セメント會社內福島縣人主催となり「たちばな」にて歡迎の宴を催し同行三人と田村郡飯豐村出身の藤井大尉を歡待してくれる、酒、ビール、日本藝者など內地より豐富である、只料理が海氣館や柏屋で食ふ程美味しくもないし量も少ない、酒は內地酒もあるとのことだが驚ろく程高價で一升拾圓もするとのこと、現地酒は安價であるが味が惡いと言つてゐたが小生等には少し臭いやうな香を感ずる外に變りはない、女は殆んど全部九州人である、東北女などは見たくとも聞きたくとも一人もゐない。序に加へておくが上海に來て飯米のよいのには驚いた、光澤のよい粘り氣の多い白米である、內地の二等米位と較べて何等の損色もない。驚ろいて內地米かと聞けば現地米だといふ。上海を中心とした南の方の米は浙江米と言つて支那では一番よい米がとれる地方であるのでこれは浙江米だと言ふ。ところが南京に來ると本當の南京米のやうに光澤も惡く粘り氣など殆んどなく剩へ粃や稗が交つてゐるこの地方は蕪湖を中心とする蕪湖米を常食とするので米質が惡いのだそうである、百里位の差でこんなに異ふものかと驚く。

御料理　平三田小路　一の井　電一六七

『節米と蓄犬』談議

◇◇◇◇　飼ひ犬の届１７１件　此處にムダあり　◇◇◇◇

二合七勺のお米配給が來月から更に强化され『三度々々の節米で御奉公』する氣持ちで各家庭は早くも薯食に、パン食にプランを樹て張り切つてゐるのにこの節米强化も他所に平市役所の蓄犬届は百七十一件と增加の傾向を示し一匹の税金三圓七十錢の割で六百三十二圓が市税と成つて現はれてゐる、これ等の蓄犬は何れも鑑札を受けてゐるものだけであるがこの外市內の野犬を併せると相當の數に上り蓄犬と節米問題は色々な意味で論議されてゐる、家庭のご飯でさへも不足勝ちなのに愛犬家はいかにして犬を飼つてゐるか、市內一二の愛犬家に伺つて見る

◇◇……或る料理屋さんの話『私ントコは御座敷の殘飯がありますから別段そんな心配をしたことは有りません』

◇◇……或る愛犬家『犬〻に取扱はれては困ります一家族の考へですから自分の茶椀をへらしても育てます、犬だつて薯ばかりは食べませんからね……』と云ふ譯でご飯が足りぬと一般家庭は困つてゐるが、余計なと思はれてゐる犬さへ育てゐる處もあるのだから未だ〳〵どこかに余容はありさうだ……とは市當局の話

市青壯年各分隊長

今日全部決定

平市南町青壯年隊長は山崎元三郎氏、大工町仝渡邊儀四郎氏に決定指名された一丁分隊長は今廿四日夜決定を見る筈で市三十四分隊は全部揃ふ譯である

海軍記念日に

平海軍部仁井田で錬成

二十七日の第卅七回海軍記念日について平鄕軍海軍部では當日記念催しを研究中であつたが『海を忘れず常に訓練を行ふこと』を主眼として當日は同海戰に參加した老勇士を招待、午前八時一同平神橋集合、仁井田浦まで往復徒步行軍し、同所でボート競漕訓練擧行、參戰勇士の回顧談を聞き、終日有意義に武を錬ることになつた

日素工場

實績擧る

週末土屋氏來場

日素工場では週末に社長代理土屋長一氏が來場するのが常となつてゐるが、今二十四日も來場する豫定で、日素工場は竹上工場長來任以來良好な成績を收め總てが順調に進み、傍系臨鐵も全面的進捗を告げこれも社長代理の責任ある土屋常務の手腕の然らしむ所として町民大衆の畏敬の的となつてゐる

白衣勇士・慰問班

萬年筆修理百八十本

慰問行の新記錄

越後高田より　中島、岡兩君

二十一日午前十時から柏崎療養所を慰問すべく諸事の打合せを電話で濟せて、午前九時半療養所着、院長上京中とあつて塚田醫務主任が代つて出迎へらる特別貴賓室に通され、重て時間の打ち合せなす。醫務主任が吾々に對し御鄭重なる御挨拶に冷汗流し恐縮する。午前十時より一時二十分まで演藝慰問、終つて修理慰問、午後三時半まで修理數百八十本今まで中のレコード破り、岡君へト〳〵に成る。此療養所には相當平方部の兵隊さんが居る、鎌田町の〇〇君も元氣で顏を見せて呉れた。此療養所で私しの最も感激した事は今までかつて『どんな慰問も聞いた事も見た事もない』と云ふ指導官村田大佐殿が演藝に御臨席され勇士と共に大笑して居られた事と、磐城每日新聞社と自分等兩名に對し慰問の功を見とめてくれて直接感謝狀を頂戴した事だ。午後四時午餐の御馳走になり療養所の自動車にて驛まで御見送りを忝なうして高田に向ふ。高田着は午後六時頃、早速高田陸軍病院に電話する、所が目下〇〇のため二十二日は慰問受けられぬとの事仕方なく一日休養して二十三日に慰問して歸路に就く。

詩吟の權威

大廳博一氏あす來平

片倉で朗吟

片倉工場長今井岩根氏は數年前から本邦詩吟界の權威大廳博一氏を招聘すべく折衝中の處漸く念願叶ひ明廿五日午後四時五十分着列車で來平することに決定同夜六時半頃から同工場の講堂で朗吟を公開することになつた

大廳氏は詩吟界に於ける日本一の家柄であり地方では殆んど公開されず、今回橫濱市に開かれた全國大會出席のため九州から出向を機會に招聘に應じたものである。

今井氏はこの機會に地方で特に詩吟を愛する同好の人々を招き公開したいと語つてゐた

農繁期の託兒所

增產目標に開設協議

縣主催季節保育所關係者協議會は今二十四日午前九時半より公會堂に平市及郡內農繁期經營者並に保姆事業關係者等約四十名が參集、縣から中山社會課主事八鍬衛生技師、根田社會課屬が臨席して開催今年は特に增產と人手不足の折柄、農村主婦の出進が期待されてゐるので開設の時期及期間、保育の內容等に關して次の事項を協議した

△季節保育所の經營に關する件△保育所の設備と用具に關する件△受託兒童に關する件△開設の時期及期間に關する件△保育の內容に關する件△季節保育所の普及に關する件△同保育者從事者（保姆）に關する件

住吉坑の生埋

二死体發掘

今夕迄に全部發掘

既報、磐炭住吉坑第二斜坑の落磐六名生埋事件はその後同坑々夫が總動員で晝夜兼行の發掘作業を續けてゐたが昨二十三日午後五時半頃に至つて十九日以來五日目に竹澤正一君(三七)の死体が發掘され更に今二十四日午前六時半頃福島正二君(三六)の死体が發見された、尙ほ今二十四日夕刻までには殘る四名も全部發掘される豫定である

化學工業界

代表視察

既報日本化學工業の權威東京月島機械株式會社外二十二大工場主任一行は今二十四日午前九時日本水素工場見學の爲め來場するが化學の殿堂視される日素は全日本の注視の的となつてゐる

ある

吉田中佐に

余榮

大佐進級傳達式

卅一日原隊へ無言の凱旋する內鄉村出身陸軍々醫中佐吉田平一氏に二十三日〇〇部隊長より大佐への進級官記が交付され平市材木町未亡人ハナさんに傳達された

濁酒密造

晩酌

持出して御用

內鄉村白水神奈川炭礦坑夫橋本學(三三)は四月上旬ごろから自宅で濁酒を密造し飲んでゐたが四合瓶數本に濁酒を詰め親戚に行くべく平市內をブラ〳〵漫步中平署員に發見され檢擧された

子寶部隊

平市に該當無し

平市では縣からの依賴で十名以上の〃子寶の家庭〃を第二回目を調査してゐたが該當者がないのでその旨縣へ報告した

壯丁檢査

卅日から執行

本年度の石城郡下徵兵檢査は三十日から來月十二日まで市公會堂で執行される

自殺の身元

平市の緣者か？

去る四月二十九日午前五時頃常磐線磐城太田驛北方線路約一粁の地點に四十歲前後の男の轢死体あるのを發見し相馬郡太田村で遺骨にしてあるが平市に緣の者らしいと二十三日平市役所へ身元調査方を依賴して來たので、市では二十五日各區長へこの調査を照會することに成つた

同人の人相は身長五尺三寸位、頰焦け眉毛薄く稍々長い、頭髮五分刈位、瘦形、羽織純綿白半襦半、半ズボン、猿股、紺足袋

刀劍詐欺

平署に捕る

東京市荒川區尾久町研師藤橋定衛(三五)は昨年三月十五日埼玉縣大里郡深谷町內町刀劍商栗原正一氏より備前介宗治二尺四寸もの（時價三百五十圓）外四振二千五百圓相當分の販賣委託されたのを奇貨にこのうち一千七百圓を詐取し逃走、平市田町伊藤刀劍店に立寄つた處を平署員に檢擧された

二宮尊德翁

神精鼓吹

大谷市議栞寄贈

平市三丁目市議大谷武雄氏は兒童訓育の資料に第一國民學校へ二宮尊德翁少年時代の銅像一基建立寄贈したが今度尊德翁の精神を集錄した唱歌を載せた栞を作り同校の全兒童へ配ることになつた

學校當局も時局下の兒童を訓育する好資料であると大喜びで

銃後寄附

新川町田中さん

平市新川町田中宣治さんは今二十四日二十圓を奉公會へ寄附した

赤井嶽登山

四倉町本町第二區第四隣組では組員家族中出征してゐる勇士の武運長久を祈願し併せて体位向上と無火災祈願のため來月一日赤井嶽藥師へ參拜する

平の砂糖

お節句前に配給

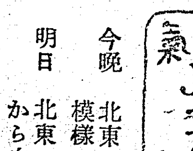
平市の砂糖配給は五月のお節句に間に合ふやう廿七、八日頃行ふべく市で準備を進めてゐる

平市慶弔錄

【婚姻】△平市字鷹匠町四番地和田喜重(四九)さんと平市舊城跡二十番地勝見よう(四三)さん

【死亡】▲平市字搔槌小路十九番地木田健治(三三)さん△平市二丁目三十七番地畠傳次郎(五三)さん

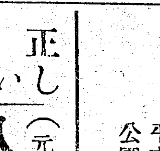
商況



（二十四日）

【野菜】	高	安
筍	一二〇	
葉玉葱	二五	二〇
人參	四八	
大根	三五	
ホレン草	四五	
ニラ	一五〇	
カブ	三〇	二五
ウド	一一〇	
【鮮魚】		
鯛	八五、〇	
アジ	一八、〇	
平目	五四、〇	
サバ	一四、四	
アンコ	五、〇	

日曜　癸酉　先負　定　房宿



舊四月三十日

新五月廿五日

▲一白　之より山路に掛るが如し步調正しく急ぐな

▲二黑　事業意の如く行はれず煩悶甚しかるべき日

▲三碧　運勢は平調なれど移り氣多きは挫折を生ず

▲四綠　信用を落さざる樣眞面目なれば平康を保つ

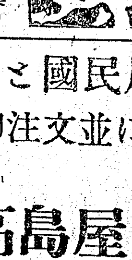
▲五黃　力任せに事を企つれば福德を失ふことあり

▲六白　望みは達し難く危地を出づるに骨折ある日

▲七赤　陣容次第に亂れて壞滅に至らんとする凶日

▲八白　意氣更に萎縮を加へ諸事進み難し奮起せよ

▲九紫　氣運盛にして成功すれども甘言には乘るな



今晩　北東の風曇り模樣

明日　北東の風曇りから次第に惡くなります

（二十四日）

滿潮　前二、五五　後四、四五

干潮　前一〇、〇五　後一〇、〇五

軍服と國民服
御注文並に既製品
（高）
高島屋の洋服
平市二丁目通　電話三六八番

貸間
二階　十丁、八丁二室
階下　四丁半一室
）(…全市を一眸に收め、風光良く涼風盛夏を忘れしむる健康地…）(
【御希望の方は直接御問合せ下さい】
平市松ケ岡公園第一廓
春木亭
電話518番

正しい軍服調整
入營 應召には（元陸軍御用達）
軍服仕立に絕對的自信を持つ
陸軍砲工學校指定の經驗を誇る
軍服　乘馬ズボン　紳士服　國民服
平市田町丸新デパート內
菊地洋服店
電呼二十八番

乘合 貸切 馬車御案內
乘合區間平、夏井間、平發午前七時午前九時、午後一時、午後四時の四回
は新体制下に於ける乘り心地よき快適な仕立
【貸切馬車】
運行は朝の六時から夜間は十時まで料金市內七十五錢、市外四キロ二圓五十錢一キロを增す每に一圓增
大河原トラック部
同　乘合馬車部
平市大町　電五七六

賣買・交換
カメラ
專門の店
現像 燒付 引伸
御不用カメラは東京相場よりお高く頂戴致します
平市中央通り
茂木カメラ店